

佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上佐賀県教育センター 研究調査棟内
TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

全人教大会の成功を

これからの佐賀県の人権教育・啓発につなげよう



佐賀県人権・同和教育研究協議会
会長 今村 統 嘉

先の総会で再任いただき、会長を務めることになりました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

まずもって、先の東日本大震災での多くの犠牲者の方々のご冥福と被災者の方々への早い復興を心よりお祈り申し上げます。

また皆様方には、日頃より各地域、職場、それぞれの立場で、課題に向き合い、人権・同和教育の実践・研究・啓発にご尽力をいただいておりますことに心から深く敬意を表します。

私ども佐同教は、昨年度大きな財産を得ることができました。それは、第62回全国

人権・同和教育研究大会を成功裏に導くことができたことです。佐賀県内はもとより、全国から12000人もの方々参加をいただき熱心な議論が行われました。地元佐賀からも、特別報告と特別講座、更には22本の実践報告を出すことができ、全国各地の深く掘り下げられた実践と佐賀の取り組みがつながりながら全国へ発信することができました。これもひとえに、県教育委員会をはじめ、関係機関・団体の皆様方、会員の皆様方の多大なご支援・ご協力の賜物であると感謝申し上げます。この全人教佐賀大会を通して、私たち佐同教がめざして

いる、一人ひとりの人権が尊重される社会、すなわち「誰もが生まれてきてよかったと思える社会」の実現が必要であることをより一層確信することができました。今後とも、あらゆる人たちと手を結び、人権・同和教育の啓発・推進を一層推し進めていかなければならないと考えます。

更に、この全人教佐賀大会の成功を生かすためにも、今年の8月に有田町と嬉野市を中心に開催いたします「第38回九州地区人権・同和教育夏期講座」は、一つの大切な試金石だと考えております。特に、有田町・伊万里市・嬉野市・鹿島市・太良町のご理解・ご支援に深く感謝申し上げます。全国大会・九州大会と大きな大会が続いておりますが、この夏期講座の成功に努め、佐賀県の人権・同和教育を更に大きく発展させたいものです。そのために、佐同教が一丸となつて、人権教育、人権啓発、人権のまちづくりという活動の柱を共有して、日々の取り組みを大切にしていきましょう。

二〇一一年度

第四十二回 佐同教総会並びに研修会

五月二十日(金)

有明スカイパークふれあい郷

「自有館」

県内の学校教育・社会教育関係者など四百十九名が参加して、総会並びに研修会が開催されました。本年度は、半日開催でしたが、スムーズに議事を進行することができました。

来賓祝辞の中で、志岐宣幸県副教育長は、「二十一世紀は人権の世紀であり、東日本大震災の被災者に対する配慮をしながら、ともに支え合う社会を築いていきたい」と話されました。

総会では、一〇年度の事業報告・総括、会計決算報告及び監査報告、一一年度の役員選出・研究課題・事業計画・会計予算案など審議され、承認されました。

その中でも、一一年度の研究課題は、行政・学校・地域・市民活動・企業が連携・協働し、より多くの人の願いが実現する社会づくりのために、①人権啓発、②人権教育、③人権のまちづくりが提起されました。

「不登校、ひきこもり、ニート等、アウトリーチを用いた多面的アプローチ」

社会的孤立・排除を生まない支援体制の確立に向けて

谷口 仁史 さん

(NPOスチューデント・サポート・フェイス代表理事)



総会後の講演では、谷口仁史さんに、二〇〇三年に立ちあげられたNPOスチューデント・サポート・フェイス(S.S.F.)の活動を通して、不登校やひきこもり、ニート等の支援について話をさせていただきました。以下、講演の概略です。

◎NPOスチューデント・サポート・フェイス(S.S.F.)とは?

○主な対象：不登校、ひきこもり、非行、ニートなど自立に際して支援が必要な子ども・若者など

○組織体制の特徴：現場で支援にあたるのは、20代30代の専門家が中心

○活動概要：アウトリーチ(訪問型の相談

支援)を中心に、居場所づくり活動、就労支援活動など社会的な自立までを一貫して取り組んでいる。全国的に見ても高い利用率と改善率である。

◎なぜ、今、アウトリーチが求められているか?

これまでの「来訪型」「施設型」の支援は、若者の自発的な行動を前提としているので限界があったり、不適応行動の背景にある要因に助言はできるが直接的な支援はできないという現状があったりした。更に、複合的な問題を抱える若者は、卒業や中退などで支援が終了した後、社会的孤立に陥りやすいという実態もあった。

アウトリーチでは、これらの公的支援の不備を補って、分野横断的に自立まで責任をもって見届けられるのである。

◎これまでの訪問と何が違うの？

20代、30代の「お兄さん」「お姉さん」的な身近な存在の力を活用し、世代間のギャップの軽減を図っている。また、引きこもりの場合は、第三者モデルとして生き方モデルを示していくのに、近い世代は現実的なモデルになる。

もう一つは、環境にアプローチができることである。共に生活していくなかで、課題を共有し解決していくという方向性をもって取り組んでいる。

また、県内にとどまらない重層的なネットワークを構築しており、何が当事者にとって必要なかを考えて連携している。

◎不登校、ひきこもりってどんな状態？

(具体的な事例を紹介しながら…)

アウトリーチの現場で見えてきたのは、不登校やひきこもりなど不適応行動の背景には、いじめや虐待などの要因があるということである。しかし、周りがそれを把握できないために孤立し、精神的に追い込まれた状態になっている。そこで、支援には、不適応になった背景にある要因に配慮し、アプローチすることが大切になってくる。要因は個人によって様々で、複合的な要

因が作用している。今、従来の枠組みをこえた支援が求められている。

◎どうやったらうまくいくの？

キャリア・コンサルティングのための Five different positions (「対人」、「メンタル」、「思考」、「ストレス」、「環境」の五つの視点) でレベル分けをし、就労に向けた具体的な方法を考えている。

対人関係の苦手さを克服する適応訓練の場としてのコネクションズ・スペースがある。コネクションズ・スペースには、20代30代の専門家を常駐させ、コミュニケーションのトレーニングなどを具体的にしている。



複合的ストレスを抱えている子には、最初の一步を踏み出すストレスをできるだけ軽減している。そして、段階を少しずつ踏みながら、生活場面につなげるようにしている。認知の歪みがある子には、認知行動療法を取り入れている。就労体験

も一緒に参加し、困ったときは具体的にどうするかモデルを示し、経験を伴って認知的な修正をかけていく。

「メンタル」面は、生活を共にした人がしっかりと見立て、「メンタル」面に配慮した学習指導を確立している。家庭訪問を一週間に一度のお楽しみと思ってもらえる支援をしている。

「環境」は、本人と家族の両方の支援をしていく。解決できる問題は、家族と一緒に解決し、多面的なアプローチをしていきながら、本人の困難を解消していくことが今の相談支援に必要なことである。

最後に谷口さんは、SSFを立ちあげたきっかけと子どもを孤立化させないネットワークを構築していく必要性を強く訴えられました。

参加者の感想より (一部抜粋)

- ・SSFの取組がよく分かりました。互いに協力しながら青少年のサポートをしていきたいと思えます。
- ・アウトリーチによる支援の在り方が大変参考になりました。また、他団体と協力していく大切さを感じました。
- ・支援の仕方のヒントをもらいました。役に立っていききたいと思います。

「人権社会確立第三十一回全九州

研究会」に参加して

鹿島市社会教育指導員

成平 重治

五月二十五日～二十六日にかけて、鹿児島アリーナを主会場に、研究会が開かれました。

参加者全員で、東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を祈り、黙とうをささげた後開会行事が始まりました。

記念講演は「アイヌに生まれて アイヌに生きる」と題して、アイヌ古布絵作家宇梶静江さんのお話でした。アイヌの家に生まれ、幼い頃から厳しい差別にさらされ、アイヌであることを受け入れられないまま生きてきた長い道の中の出来事。アイヌとして生きていこうと決めた後の活動とともにアイヌ文化の良さを、誇りを持って話されました。特に、私たちが忘れていた自然への畏敬の念の大事さについて学ぶことができたと思います。

次に、『教えて「HTLV-1」のこと』知ってください！スマイルリボンのこと』について、スマイルリボン代表理事で

ある地元鹿児島島の菅付加代子さんから、特別報告がありました。

スマイルリボンの目的は、ATLやHAMなどHTLV-1(成人T細胞性白血病ウイルス)が関連して引き起こされる病気の治療研究を推進すること、発症した患者の救済(特定患者認定など)策を国に求める活動等のことです。自らも輸血によって患者になり、(現在輸血感染は防止されています)闘病生活をしながらも、国に働き続けてこられた活動の報告がありました。活動し続けたことが、国まで動かしただという貴重な体験を学ばせてもらいました。

二日目は、八分科会に分かれ、それぞれの課題の解決に向けての報告や討論がなされました。



全体会会場 (鹿児島アリーナ)

第41回 佐賀県人権・同和教育研究大会のご案内

10月28日(金) 分科会

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 第1 行動につながる学びづくり | 三田川健康福祉センター「ふれあい館」 |
| 第2 子ども支援・家庭支援 | 西九州大学7号館6F大講義室 |
| 第3 子ども同士をつなぐ仲間づくり | 神埼中央公民館第1研修室 |
| 第4 豊かな生き方を学ぶ人権・部落問題学習 | 西九州大学5号館B2第2視聴覚講義室 |
| 第5 市民活動・企業活動交流 | 神埼中央公民館多目的講堂 |

※課題別研究会「就学前教育」は10月16日(日)佐賀県教育会館で開催します。